



暮らしの瓦版

2009年10月号



「木造軸組工法の家」の魅力(13)

「跳び箱の踏み台はなぜ木なのか」

体育館の床や跳び箱の踏み台、野球のバットなど、スポーツの様々な場面で使われている木材。なぜ、それほど、木材が使われているのでしょうか。それは、木材には衝撃緩衝効果があるからです。この効果によって、歩く時や運動する時の衝撃をやわらげ、また、転倒した時のケガを軽減します。

屋内運動場の研究者が中学校の体育館について調査した報告書には、木造の床が傷害発生を防止することが報告されています。それぞれ床の材料や構法などが異なる10校に対して行ったアンケートで、どの程度の堅さが運動しやすいかを調査を行った結果、ちょうどいいと答えた人が最も多かったのは、「木造床組で厚さ18mmのカエデを使用しているもの」でした。コンクリートにゴムを塗った床はかたくてだめなようです。

次に床のかたさと運動時の異常（ヘルニアや筋肉痛、肉離れなど）の発生率の関係を調べた結果はやはり、コンクリートにゴムを塗った床は運動時の異常の発生率が高いようです。また、根太の間隔が450mmピッチのものは運動するにはやや弾みすぎる傾向があるためか異常の発生率が高くなっています。このことから、床がかたすぎても柔らかすぎても運動には悪いことがわかります。ケガの発生予測率と床のかたさの関係では、同じ条件で、床がかたいほど、ケガをしそうだと感じる人も増えています。体育館では木の床で安心して運動したいものです。

ケガをしないようにするには、転んでも痛くないように柔らかくするのが、一番です。でも、柔らかすぎると歩きにくくなり、かえって転んでしまいます。木材は、コンクリートなどに比べると柔らかいですが、ほどよい「かたさ」と適度な「たわみ」があります。この木の特徴を取り入れたのが、跳び箱の踏み台です。ちょうどよいかたさで、弾んだあとにまた元の形に戻ります。まるで木は自然素材でできた精巧なバネのようです。

このようなことから木でできている木造軸組工法住宅は、その架構が優れたバネのようになつて人が気づかないうちに歩きやすく、疲れにくくし、そして安心感を与えてくれるのです。



季節の風物詩

「ハロウィン」



万聖節(キリスト教で11月1日にあらゆる聖人を記念する祝日)の前夜祭。秋の収穫を祝い、悪霊を追い出す祭りです。数千年前の古代ケルト民族の祭りが起源と言われ、古代ローマ人がブリテン島を征服して、古代ケルト民族のドルイド教の収穫祭の行事に、ローマの果実女神 Pomona の祭りが加味されたといわれ、その後キリスト教が伝来し、現在の Hallowe'en という名前になりました。つまり、古代ケルト・古代ローマ・キリスト教という3つの要素が混合したもののようです。

生活

「お月見：十五夜・十三夜」



秋は名月の季節。澄んだ夜空に浮かぶ、まるいお月様は格別です。月見とは、満月など月を眺めて楽しむことで観月とも言います。月見といえば十五夜が定番ですが、他にも十三夜、十日夜の月見行事があります。昔から十五夜、十三夜、十日夜の3日間が晴れて月見ができると縁起が良いとされています。満月を鑑賞する習慣は中国から伝わりましたが、十三夜は平安時代に貴族達が集まって、月を見て詩歌を詠んだのが始まりで日本独特のもので、月を見て十五夜は陰暦8月15日を「中秋」と呼ぶため「中秋の名月」とも言い、この夜に月が見える場所などに、すすきを飾って月見団子・里芋・枝豆・栗などを盛り、御酒を供えて月を眺めた(お月見料理)、豊作を祈る満月法会を行うため、芋名月とも言う地方もあります。

【十五夜】中国が始まりとされ、仲秋節として日本より盛大に祝い月餅を作ってお供えをします。この月餅が日本に伝わって、月見団子に変わったようです。朝鮮ではチュンソク(秋夕)とよび、ソンピョン(松餅)をつくります。

【十三夜】旧暦9月13日のお月見のことで、旧暦8月15日の十五夜の後に巡ってくる十三夜をさします。十三夜は十五夜に次いで美しい月だと言われているため、中秋の名月(十五夜)から約1か月後に巡ってくる十三夜のお月見を昔から大切にしている、十五夜または十三夜のどちらか一方しか観ないことを「片見月」と呼び、縁起が悪いこととしていました。また、十三夜には栗や枝豆を供えることから「栗名月」「豆名月」ともいいます。

【十日夜】旧暦10月10日に行われる収穫祭で、東日本を中心に行われています(西日本では旧暦10月亥の子の日や11月に、類似する収穫の行事を行います)。その内容は地方によって様々ですが、稲の刈り取りが終わって田の神様が山に帰る日とされているため、稲の収穫を祝ってお餅をついて食べたり、稲の茎を束ねた「わらづと」や「わら鉄砲」で地面を叩きながら唱えごとをして地面の神を励まし、作物にいたずらをするモグラを追い払います。また、「かかしあげ」といって田んぼを見守ってくれたかかしにお供えものをし、かかしにお月見をさせる地方もあります。十日夜はお月見がメインではないため、月齢に関係なく新暦の11月10日に祭りを実施する地方が多いようです。

今年のお月見は10月3日、十三夜は10月30日。10月はお月見三昧とばかりに美しい月を大いに観賞するのも良いでしょう。

生活

「オリンピック東京招致」運動



東京オリンピックが開催されて45年の今年。2016年のオリンピック開催地に東京が立候補しており、10月2日、その結果がよいよ発表されます。当初、シカゴ、マドリッド、リオデジャネイロ、東京、バクー、ブラハ、ドーハの7都市が申請を出していましたが、その中から、ギリシャ・アテネで開かれたIOC理事会で、マドリッド、シカゴ、リオデジャネイロと東京の4都市が立候補都市に選ばれました。そしてスイス・ローザンヌで6月17日、18日の2日間、大会開催計画を専門的に説明するプレゼンテーションが行われ、その後、各立候補都市の現地視察を行った評価委員会から報告書が発表されました。この報告を踏まえ、開催都市の決定権をもつIOC委員たちにより10月2日、デンマーク・コペンハーゲンで開かれるIOC総会で、4都市による最後のプレゼンテーションを受けて最終の投票を行います。投票は、いずれか1都市が全投票数の過半数を獲得するまで続けられ、1回の投票ごとに投票数が最も少ない都市が脱落する方式で行われます。ちなみに、ロンドンが2012年の開催都市に選ばれた、2005年シンガポールでの投票は、ロンドン、パリ、マドリッド、ニューヨーク、モスクワの5都市で争われた結果、4回目の決選投票で、下馬評の高かったパリを、ロンドンが下し、見事3度目の開催を決めました。

今回東京は、8km圏内に97%の競技施設を配置するよう競技会場を都心に集約。その会場間を緑のラインで結び、緑と水の都市を再生させるプランを打ち出しており、最もコンパクトで環境にやさしいオリンピックを目指しています。アスリート達の息遣いを身近で感じられる「東京オリンピック」の開催実現の行方はいかに!?

「消費者庁」



福田康夫前総理の発案により9月1日、内閣府の外局(総理大臣直轄組織)として消費者行政を統一的・一元的に推進するための新組織、消費者庁が設立。職員は約200名で、内閣府、公正取引委員会、経産省、農水省、厚労省などの消費者担当部門から集められ、他、弁護士や消費生活相談員などの非常勤職員が60名ほど加わります。近年、食品偽造・安全、製品事故、悪徳商法など問題が多発しています。これまで縦割りでバラバラだった消費者関連業務が、一括して行なわれることになり、市民生活の安全・安心が確保され、情報を早期に集約し対策・対応する機関として期待されています。

キタ——(V)——!!モト
 修繕 リフォームから新築工事の建物の事
 優良土地活用から物件探索の土地の事
 北本建設株式会社
 埼玉県北本市古市場3-131 TEL: 048-591-1234
 URL: http://kitamoto.net/kitaken/ FAX: 048-591-0019

10月 暮らしのカレンダー

神無月、神在月、神去月、雷無月、建亥月、時雨月、上冬、大月、初霜月

1日	衣替え	12日	体育の日
3日	十五夜	23日	霜降
8日	寒露	30日	十三夜
10日	目の愛護デー	31日	ハロウィン